

# 「自ら考え判断し、行動できる児童の育成

## ～防災教育を通して～

令和4年度 高知県学校安全総合支援事業（災害安全）

土佐清水市教育委員会 拠点校 土佐清水市立足摺岬小学校

### 1 事業の目標

#### (1) モデル地域の現状及び安全上の課題

土佐清水市では全ての学校で防災学習を計画的に進めているが、本県防災意識調査結果と同様、家庭や地域の災害時における防災・減災意識や家具固定等の防災対策については、まだまだ十分であるとはいえない。

#### (2) モデル地域の事業目標

拠点校を中核として先進的・実践的な防災教育の手法や地域連携の在り方等を研究し、実践委員会を中心に、これまでの拠点校や地域の方々の助言を仰ぎながら取組を充実させていく。さらに、市内の人々が自らの命を守るよう、児童からの情報発信が地域や市内全域へと展開できる体制を整える。土佐清水市では、市内全域の全ての学校において防災教育を5時間以上実施することを基本とし、拠点校の取組成果を普及させていく推進体制を構築し、防災教育の一層の推進を図る。

### 2 モデル地域の取組の概要

#### (1) 安全教育の充実に関する取組

##### ア 安全教育の充実に関する取組

モデル地域全体への普及方法として、防災教育実践委員会を年2回開催し、拠点校である足摺岬小の取組を説明した。特に保護者に対する防災意識調査を本年実施前後でとった数値を成果と課題として各校共有し、今後の安全教育に活かす取組として参考としていた。

##### イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

市内各校に対して教育の取組を評価する成果指標として、今年度の事業実施前、実施後でアンケートを行った。このアンケートを行うことで市内各校・各地域内の状況を把握し、検証し、具体的に改善していく効果が表れた。

#### (2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

市内各学校の安全管理組織的取組による安全管理の充実に関する取組として危機管理マニュアルの見直しや内容の周知などを行い、日頃の安全教育・管理や危機発生時における各教職員の役割について、共通理解を図っている。また、保護者や地域住民・関係機関等へ開かれた学校づくり推進委員会等で公表し、組織的に安全管理の充実を図っている。

#### (3) 学校安全推進体制の構築及び学校安全担当教員の資質向上に係る取組

学校安全担当教員の資質向上に係る取組として、モデル校を軸とした公開授業研究会での公開授業・研究協議・協議の共有・講話等を行っている。

#### (4) その他の主な取組について

拠点校である足摺岬小学校の取組や成果をモデル地域全体で普及する方法として研究授業の開催や、地域の子どもを守り、育てる会などで活動報告を行っている。また、防災教育実践委員会です市内の小中学校長に拠点校の取組を報告している。また事業実施前・実施後のアンケートを行うと、事業実施後では、学校安全を推進する項目は各校とも実施前の数値を上回っていた。

### 3 拠点校の取組

#### (1) 拠点校の目標

学校教育目標『やさしく かしこく たくましい子どもの育成 ～生き生き! 岬の子

共に高まる～』、および安全教育目標、①『自ら考え判断し、行動できる児童の育成～防災教育を通して～』の下、児童と共に『早期避難意識の向上』及び『防災力の向上』に資する防災教育を推進する。また、保護者、地域の方々の防災意識の啓発・向上や防災力の向上を視野に入れて、地域住民や市当局及び各関係機関と連携した『自助・共助・公助』を基盤とする防災教育の展開を目指す。

さらに、「学校運営協議会」「足摺・松尾の子どもを守る会」の防災や安全に係る活動や学習への参加・参画が、本事業終了後も持続性を有した取組になることを目指す。

- ◎災害時に起こる様々な危険について知り、自ら命を守る行動ができる児童を育成する。
- ◎災害時を想定した訓練や学習を通して、自助から共助となるよう家庭及び地域との結びつきを深める。
- ◎自分たちが住んでいる地域の良さや過去の災害から学び、地域の頑張りや思い、課題について知り、調べることを通して、より地域に触れ、地域愛を育む。

## (2) 具体的な取組

### ①目標達成を目指した取組のポイント

児童等に「防災意識」や「防災や減災に係る取組」に係るアンケート調査を実施し、現状や課題、意識の変容や取組の進捗状況等を把握して、以後の取組の改善や推進に活用する。

高知県学校安全総合支援事業研究発表会、講演会、公開授業等を開催して、モデル地域全域への普及活動を行う。

- 防災教育に関する年間指導計画の見直しとふるさと防災学習の実施
- 地域や関係機関と連携した取組の実施
- 様々な状況下を設定した避難訓練の実施
- 学校・家庭・地域が一体となった防災意識の向上を目指した取組の実施

年度初めに提出した拠点校の取組の概要にそって、以下に記す具体的な取組を行ってきた。

### ②ふるさと防災学習の取組(保護者、地域、関係機関と連携した取組含む)

#### 【1・2年生】

学習テーマ：身を守るためにできることを考えよう

～家で地震が起きた時のためにそなえよう～

- ① 学校(教室)で地震が起きたら、どうする?【5月・6月】
  - ・地震の知っていることを出し合う。
- ② 防災ダンス(保育園)【7月】
  - ・大木先生と保育園と合同授業
- ③ 学校で危険なことはないかな【9月】
  - ・廊下、階段、図書室、音楽室、ランチルーム、多目的室、体育館、校庭)
- ④ お家の人がお仕事中に地震が起きたらどうするのか聞いてみよう【9月】
  - ・お父さんやお母さんがゲストティーチャーとして来校
- ⑤ 身を守るためにどんなことができるか考えよう【10月】
  - ・絵本や映像から考える
- ⑥ お家にいる時に地震が起きたらどうするか考えよう【11月～2月】
  - ・家の中であぶないところはないだろうか。
  - ・自分の家は地震対策をしているか聞いてみよう
  - ・防災グッズを作ろう
  - ・家にいるときにぐらっときたらどうしたらいいだろうか。
- ⑦ まとめよう【2月・3月】

#### 【3・4年生】

学習テーマ：学校周辺の防災について考えよう!

～防災マップを作成し学んだことを伝えよう～

- ① 災害の恐ろしさを知ろう。【5月～7月】

- ・南海トラフ地震のことを知ろう
- ・起震車体験
- ・土井先生の話
- ・学校で地震がきたらどうしたらよいか考えよう。

(図書室、トイレ、体育館、階段、廊下、教室にいたらどう行動したらよいか考えよう)

- ② 学校の周りの危険な場所を知ろう。【9月・10月】
  - ・足摺の地形について知る(学校周辺のフィールドワーク)
  - ・足摺に起こりうる災害について知る(地震、津波、台風、大雨、土砂災害が起こる)
  - ・災害について調べる
  - ・災害について話を聞く
    - (市の危機管理課、地域の方(国際ホテル会長さん、自主防災、消防団))
  - ・他の危険な場所について調べる(港、川、海、ダムなど)
- ③ 災害について自分たちで調べる【10月】
  - ・フィールドワーク(砂防ダム、崩れた場所、高潮の災害碑)
  - ・話を聞く(市の危機管理課、地域の方、消防団屯所、自主防災、お年寄り)
- ④ 他の危険場所について調べる【11月】
- ⑤ 学校の周りの危険な場所を知ろう。【11月】
- ⑥ 足摺の地形について知る(学校周辺のフィールドワーク)【12月～2月】
  - ・足摺に起こりうる災害について知る(地震、津波、台風、大雨、土砂災害が起こる)
  - ・災害について調べる
  - ・災害について話を聞く
    - (市の危機管理課、地域の方(国際ホテル会長さん、自主防災、消防団))
  - ・他の危険な場所について調べる(港、川、海、ダムなど)
- ⑦ 防災についてまとめよう【2月・3月】

#### 【5・6年生】

学習テーマ：ふるさと・防災・再発見！

～自分たちにできること～

- ① 足摺岬・松尾の歴史(災害等)について【5月】
  - ・歴史から災害を考える。
- ② 足摺岬・松尾の地形や災害について【6月】
  - ・過去の災害や今後発生する災害について考える。
- ③ 地震の揺れの危険について
  - ・大きな危険と小さな危険～避難の重要性～【6月】…防災研究授業
- ④ 地域の危険について考える【7月】
  - ・足摺岬、松尾…観光中に災害に遭うとする？
- ⑤ 足摺岬・松尾のことについて知る。【9月～11月】
  - ・観光ガイドオリエンテーション(環境省)
  - ・足摺岬観光ガイド体験(観光ボランティア)
  - ・足摺岬、松尾のオススメ場所や避難場所、災害、危険について考える。
  - ・観光ガイド(松尾、発表)文作成、練習…(防災の観点含む)
  - ・リーフレットについて
- ⑥ 足摺岬防災観光ガイド原稿づくり【12月】
  - ・環境省授業
- ⑦ 足摺岬防災観光ガイド【1月・2月】
  - ・練習
  - ・椿祭り等で観光ガイド予定
- ⑧ 学習のふり返り(まとめ)【2月】

## 【全校 校内防災発表会】



11/17 研究発表会前の 10/28 に各学年の学習内容や取組を全児童が知っておくことをめあてに、校内防災発表会を実施。

### ③避難訓練の取組

#### 1 ねらい

- ◇南海大地震が高い確率で起こることを前提に、地震が起きた場合の災害（火災など）を知るとともに、災害から児童を迅速・適切に避難させ、生命身体の安全を守る。
- ◇全児童が、非常災害に当たって、安全に避難する能力を身につける。
- ◇大きな集団の中で、機敏かつ的確な行動をすることが、秩序を保ち、能率的に行動するために必要であることを理解する。

#### 2 日時

##### 【保小合同避難訓練】

- 5月26日（火） 9：50～10：10（保小合同）【地震】
- 11月2日（水） 10：00～10：20（保小合同）【地震】
- 12月1日（火） 10：00～10：20（保小合同）【火事】
- 2月14日（金） 10：30～10：50（保小合同）【地震】

##### 【防災参観日】

- 6月21日（火） 14：10～14：25（保護者合同）【地震】

##### 【ショート訓練（地震）】

- 4月28日（金） 13：00～遠足
- 7月14日（木） 9：00～
- 9月1日（木） 10：00～
- 10月12日（水） 13：35～
- 12月16日（金） 8：50～
- 1月17日（火） 10：25～
- 2月14日（火） 12：10～
- 3月10日（金） 13：25～

##### 【避難訓練の様子】

（ショート避難訓練）

（春の遠足）

（保小合同避難訓練）



### ④学校・家庭が一体となった防災意識の向上の取組(防災意識アンケート調査の実施)

児童等に「防災意識」や「防災や減災に係る取組」に係るアンケート調査を2回実施し、現状や課題、意識の変容や取組の進捗状況等を把握して今後の取組の改善や推進に活用する。

●第1回防災意識アンケート実施日 2022年 2月 1日

●第2回防災意識アンケート実施日 2022年 11月 24日

#### (3) 取組における成果と課題

##### ①ふるさと防災学習の取組(保護者、地域、関係機関と連携した取組含む)

防災学習としての一番のねらいは、南海トラフ巨大地震が発生した場合、揺れや津波、二次災害等から命を守ることである。そのためには、足摺岬・松尾地区は地震に強い地域ではあるが、いつ、どこで地震に遭うか分からない。そのため強い防災意識を持ち、

自助、共助、公助の精神で発達段階に応じた適切な行動ができることだと考える。今年度の防災学習のまとめとして、各学級では次のように考えている。

#### 【1・2年生】

学習で学んだことをもとに、地震が起こった場合にどんな行動をすればいいのか、また被害を最小限にするために何ができるかを考え、命を守る防災意識をさらに高めていきたい。

#### 【3・4年生】

危険な場所や安全を守るための場所などを確認し、学んだことを家族に伝えることはもちろん、そこから自分たちができることを考えるなど主体的に行動し、判断できる力を身につかせ、万一の地震に備えていける学習を継続していきたい。

#### 【5・6年生】

災害は、いつどこで発生するのか分からない。そのため、どこにいてもよりよい避難、防災対策を身に付けて実行することが重要であると考え。そのため、これまでの学習を踏まえ、今後予想される南海トラフ巨大地震等の対策として、有効的な活動の仕方、家庭や自分でできることは何かを考えることで、防災意識を高め、自助・共助・公助等、命を守る方法を学習し、意識の向上を図っていきたい。

### ②避難訓練等の取組

最大の成果は、隣接する足摺岬保育園と様々な訓練が実施できたことである。子ども同士の交流はもちろんであるが、教職員同士が防災学習や避難訓練等の確認が密に行えたことは、子どもたちの命を守るための大きな成果となった。今後も保小が連携した取組を継続していきたい。

毎月避難訓練を行うことで、素早く机の下にもぐり、サルのポーズ等でしっかりと机を押さえることができるようになった。ショート訓練が多いので、揺れが収まるとすぐに外へ避難することがあまりできていないので、身を守ったあとの行動も身に付けることができるように訓練を継続していく必要がある。

### ③学校・家庭が一体となった防災意識の向上の取組(防災意識アンケート調査の実施)

本事業に係るふるさと防災教育を通して、『子どもたちをはじめ、この地域に集う「みんな」の生命を守り、犠牲者「0」を目指したい、また、災害後もみんなの力で復興を果たし、ふるさと(足摺岬・松尾地域)で暮らしていきたいと思える児童を育てていきたい。』を合言葉に、学びを進めてきた。その結果、2回実施したアンケート調査のほぼ全項目で、事業当初の調査に比べ肯定的回答が大きく上昇した。

前回アンケート(2022年2月1日)との比較

- ・「あなたは、南海地震について、話を聞いたり見たりしたことがありますか。」  
学校の授業での割合が増加(44.4%⇒90%)
- ・「あなたは、地震が起きたときに、揺れから自分の命を守る方法を知っていますか。」  
(44.4%⇒ほぼ100%) 様々な避難訓練を実施した成果
- ・「あなたは、地震が起きた後に、避難する安全な場所を知っていますか。」  
(学校にいるとき 88.9%⇒100%) (家にいるとき 55.6%⇒85%)  
防災学習と避難訓練の成果
- ・「あなたは、一人で登下校しているとき、地震が起きたら安全な場所に避難することができますか。」  
(16.7%⇒90%) 現地学習と保護者、地域の声かけの成果
- ・「あなたは、地震などで避難した後に、家族と集合する場所を決めていますか。」  
(決めていない11人 55%)
- ・「あなたは、地震などで避難した後に、家族との連絡の取り方を決めていますか。」  
(決めていない19人 95%)

- 保護者への啓発及び防災学習を通しての連携を更に強化していく。
- ・「あなた（あなたの家）は、地震に備えて準備をしていますか。」  
(33.3%⇒100%) 非常用持ち出し袋を全員が用意した。
  - ・「あなたは南海トラフ地震について、もっと学習したいと思いますか。」  
(思わない1人)  
やらされ感の払しょく、展望のある防災学習の推進(恐怖感だけを残さない)

## 4 事業の成果と課題

- (1) 成果指標 ※下の「児童」は「保護者」等を、「家庭」は「地域住民等」を対象とする場合がある。
- ①地震津波に関する防災学習年間 10 時間以上
  - ②年間を通して、様々な状況を想定しての避難訓練を月 1 回以上（年間 12 回以上）
  - ③防災に関する学校行事等への地域、保護者の参加率 65%以上
  - ④防災意識調査アンケート等の比較による意識変化 1 回目の結果から+20%以上
- (2) 成果指標の達成度
- ①地震津波に関する防災学習年間 10 時間以上  
達成率 全学年 100%
  - ②年間を通して、様々な状況を想定しての避難訓練を月 1 回以上（年間 12 回以上）  
達成率 100%(12 回実施)
  - ③防災に関する学校行事等への地域、保護者の参加率 65%以上  
達成率 地域 70%・保護者 100%
  - ④防災意識調査アンケート等の比較による意識変化 1 回目の結果から+20%以上  
達成率 どの項目においても数値は上昇している
- (3) 事業の成果と課題【○成果、●課題】
- 防災学習や避難訓練等、1 年間取り組みを継続してきたことで、児童や教職員にも意識の変化や向上がみられることが大きな成果となった。
  - 地域・保護者はもちろん、保育所、各関係機関との連携を数多くとることができた防災学習となった。
  - 現地学習の大切さを再確認することができた。
  - 防災学習と絡めて、ふるさとの良さを発見できる取り組みとなった。(ふるさと防災学習の取組を今後も継続していく)
  - 児童や保護者、教職員の意識を更に向上させていくためには更なる実践が必要である。そのためにはこれまでの取組に加えて、保護者、地域も参加する避難訓練や引渡し訓練等の実施、取組の充実と継続した働きかけが大切になる。
  - 新型コロナウイルス感染症対応が不可避の難しい状況は続く中ではあるが、各教育活動での保護者や地域住民の参加率の更なる向上を目指すとともに、各家庭で折にふれてあたり前に「家族会議」が実施できる、地域住民と連携して防災や減災の活動に取り組む等、家庭や地域の基盤の更なる醸成を目指したふるさと防災教育の推進がこれからも大切な課題である。

## 5 今後の取組の見通し

本市では、平成 28 年度から継続して本事業を実施しており、今年度をもって全ての小中学校で取り組みを行うことができた。引き続き、これまで学んだことを生かした取組を継続していく。

また、危機管理課が今年度から実施している「津波避難啓発支援事業（慶應義塾大学大木聖子准教授に委託）」に、来年度以降は小中学校も参加するなどして、大木准教授にも引き続きご指導いただきながら、市役所内でも連携した取組を行っていく。